

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

参考資料 1

協議会名： 河南町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
近鉄バス(株) 南海バス(株)	(1)阪南線 喜志駅-河南橋、東山-喜志駅 (2)さくら坂循環線 富田林駅-山中田、河南町役場、さくら坂4丁目-富田林駅 (3)千早線 富田林駅-寛弘寺-千早赤阪村立中学校前	-	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	<p>A 収支率(駅直通路線)は目標値20~25%以上に対し、R6年度実績は45.3%であった。</p> <p>A 実績に基づいた経常経費の算出により、行政負担額(駅直通路線)は目標値127,095千円以下に対し、R7年度予算額は98,488千円であった。</p> <p>A 利用促進の広報等により、金剛ふるさとバスの年間利用者数は目標値738,984人の現状維持に対し、R6年度実績は904,540人であった。</p>	<p>スマホ定期券の拡充や専用サイトのリニューアルにより利用促進に努めた。収支率の悪い系統も個別に存在するため、更なる利用促進に努めていく(イベント等)。</p> <p>利用促進と効率的な運行体制の維持に努め、持続可能な運行と財政負担の軽減を両立させていく。今後は新車購入を検討し、計画的な更新を進めていく。</p> <p>スマホ回数券の導入を行い、利用者の更なる利便向上に向け取り組んでいく。</p>

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	河南町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>河南町においては、富田林駅への移動を中心に、通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に係る移動を補助する役割を担う地域公共交通機関網(路線バス・コミュニティバス・乗合タクシー)が町内全域に広がっている。その軸となるのが路線バスによる幹線交通であるが、この幹線交通に通じるコミュニティバス等が支線の役割を果たしている。</p> <p>しかしながら、人口減少や自家用車の普及の影響を受け、本町や事業者の運営努力だけでは、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、路線の維持が難しく運行に様々な問題が生じている。</p> <p>また、バス路線を廃止した一部地域では、十分な交通手段が確保されておらず、住民に不便を強いている状況にある。</p> <p>加えて、令和5年12月20日付けで金剛自動車株式会社が廃業したことを受け、それ以降は、富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会が運行を引き継いでいるが、以前より便数を減らしたこともあり、利便性の高い公共交通を望む住民の声も少なくない。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持改善事業により、地域間幹線系統の阪南線・さくら坂循環線・千早線に加え、地域内フィーダー路線である阪南線(補完)・さくら坂循環線(補完)・石川線・白木線・河内線・千早線A・カナちゃんバス(北/南)・やまなみタクシー(A/B)を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 河南町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
河南町 (大阪第一交通株) 千早赤阪村	<p>【町内循環線】</p> <p>(1)カナちゃんバス北ルート かなんぴあ-東山-かなんぴあ</p> <p>(2)カナちゃんバス南ルート かなんぴあ-さくら坂1丁目-かなんぴあ</p> <p>(3)やまなみタクシーA かなんぴあ-南加納-かなんぴあ</p> <p>(4)やまなみタクシーB かなんぴあ-青崩-かなんぴあ</p> <p>【駅直通路線】</p> <p>(5)さくら坂循環線A さくら坂3丁目-さくら坂1丁目-富田林駅</p> <p>(6)さくら坂循環線B 富田林駅-さくら坂1丁目-富田林駅</p> <p>(7)さくら坂循環線C 富田林駅-さくら坂1丁目-さくら坂4丁目</p> <p>(8)河内線 富田林駅-寺田-河内</p> <p>(9)石川線A 富田林駅-大ケ塚-近つ飛鳥</p> <p>(10)石川線B 東山-大ケ塚-富田林駅</p> <p>(11)白木線A 富田林駅-大伴-東水分</p> <p>(12)白木線B 富田林駅-大ケ塚-寺田</p> <p>(13)阪南線 喜志駅-太子四つ辻-近つ飛鳥</p> <p>(14)千早線A 富田林駅-森屋西口-千早赤阪村立中学校前</p>	—	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 収支率(町内循環線)は目標値10~15%以上に対し、R6年度実績は7.4%であった。	運行内容の評価・検討・見直しをしながら継続運行を行っていく。特に収支率の悪いやまなみタクシーについて、あるべき運行形態の調査研究を進める。
				A 収支率(駅直通路線)は目標値20~25%以上に対し、R6年度実績は45.3%であった。	スマホ定期券の拡充や専用サイトのリニューアルにより利用促進に努めた。収支率の悪い系統も個別に存在するため、更なる利用促進に努めていく(イベント等)。
				B 燃料費高騰や修繕費が想定を上回ったことにより、行政負担額(町内循環線)は目標値30,631千円以下に対し、R7年度予算額は34,016千円であった。	現行の運行車両は走行距離が長く、修繕の頻度が高まっている状況にあるため、維持管理コストの増加を招いている。
				A 実績に基づいた経常経費の算出により、行政負担額(駅直通路線)は目標値127,095千円以下に対し、R7年度予算額は98,488千円であった。	利用促進と効率的な運行体制の維持に努め、持続可能な運行と財政負担の軽減を両立させていく。今後は新車購入を検討し、計画的な更新を進めていく。
				A 利用促進の広報等により、カナちゃんバスの年間利用者数目標値33,525人の現状維持に対し、R6年度実績は35,420人であった。	交通系ICカードの導入やバス待ち環境の改善、バスロケシステムの導入により利用促進に努めている。
				B 利用促進の広報等により、やまなみタクシーの年間利用者数目標値937人の現状維持に対し、R6年度実績は771人であった。	サービス形態について、新たなサービスへの転換等を視野に調査研究を進める。今後利用者推移が極端に少なくなっていく場合、あるべき運行形態の調査研究を進める。
				A 利用促進の広報等により、金剛ふるさとバスの年間利用者数目標値738,984人の現状維持に対し、R6年度実績は904,540人であった。	スマホ定期券の拡充や専用サイトのリニューアルにより利用促進に努めている。個別の路線で見たとときに収支率の悪い系統も存在するため、更なる利用促進に努めていく(イベント等)。

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	河南町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>河南町においては、富田林駅への移動を中心に、通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に係る移動を補助する役割を担う地域公共交通機関網(路線バス・コミュニティバス・乗合タクシー)が町内全域に広がっている。その軸となるのが路線バスによる幹線交通であるが、この幹線交通に通じるコミュニティバス等が支線の役割を果たしている。</p> <p>しかしながら、人口減少や自家用車の普及の影響を受け、本町や事業者の運営努力だけでは、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、路線の維持が難しく運行に様々な問題が生じている。</p> <p>また、バス路線を廃止した一部地域では、十分な交通手段が確保されておらず、住民に不便を強いている状況にある。</p> <p>加えて、令和5年12月20日付けで金剛自動車株式会社が廃業したことを受け、それ以降は、富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会が運行を引き継いでいるが、以前より便数を減らしたこともあり、利便性の高い公共交通を望む住民の声も少なくない。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持改善事業により、地域間幹線系統の阪南線・さくら坂循環線・千早線に加え、地域内フィーダー路線である阪南線(補完)・さくら坂循環線(補完)・石川線・白木線・河内線・千早線A・カナちゃんバス(北/南)・やまなみタクシー(A/B)を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>